

「帰敬式法座」基本構想（実施計画書）

組長懇談会説明用ダイジェスト版

1. 実施体名 岐阜高山教区（高山地区）飛騨御坊真宗教化センター
2. 事業名称 慶讃法要特別事業「高山別院報恩講帰敬式法座」
3. テーマ 南無阿弥陀仏一人と生まれたことの意味をたずねていこう
慶讃法要テーマや立教開宗の学びを通して、帰敬式を受式することの意義を確かめる。

4. 実施目的

センター教化の三本柱の一つ帰敬式の推進は、「同朋社会の実現」【別院条例第2条（別院の目的）】を目的とするものであり、今後「100年教化」として飛騨地域の真宗文化の底上げを成すための継続事業として取り組んでいく。

帰敬式を受式は当人にとっての「立教開宗」であり、自覚をもって立つ一人の真宗門徒の誕生である。それは、僧俗共に同じ立ち位置にあること、共に仏弟子であることが強く意識されることでもある。この一点において、共に開法と語り合いの場を創り、尊敬し合う「同朋関係」を構築することを、帰敬式を推進する中で実現していく。

この100年教化の基礎の構築を期して、2021年度及び2022年度において、高山別院報恩講の帰敬式を本山指定「帰敬式法座」を実施し、センター第2期での更なる帰敬式の推進につなげていく。

＜実践項目＞

- ◆ 僧侶及び受式者は、未受式の方に帰敬式を受式を呼び掛ける。
- ◆ 受式の呼びかけを通して、御髮剃（帰敬式）は歿後ではなく、存命中の受式が願われるものであることの認識が定着していくことを目指し取り組む。
- ◆ 住職は授与した法名の意味を伝え、受式後の開法課題としていただくことが定着するよう取り組む。
- ◆ 帰敬式受式を通して、教区及び組、別院、各所属の寺院の法座への参加を促す流れを作る。

5. 受講対象者 別院での帰敬式受式希望者（組の協力を得て受式者を募る）
※ 従来の事前学習のみでの受式は受け付けない。
6. 受講者定員 200人（慶讃事業として）
7. 参加費 13,000円（別院帰敬式冥加金）
8. スタッフ
【スタッフ長】三島多聞（センター長） 【副スタッフ長】帰雲真智（企画会議座長）
【企画会議】 帰雲真智・四衢亮・旭野康裕・三木朋哉・三島大遵・北條秀樹・窪田純
【各組・列座・門徒】 畑中道子・三島見らん・夏野了・小倉輝穂・岩崎静子・宮本美和子・前田法俊
9. スケジュール
2～3月 組長への説明会
3～5月 スタッフ学習会（第1回は組長へも案内）
6月上旬 募集チラシ制作・各寺院へ配布（帰敬式法座実施の通知）
7月1日～9月30日 募集期間
10月～ 帰敬式法座開設

＜準備年度スタッフ学習会＞

- 第1回 2022年3月29日(火) 14:00～16:30 講師：四衢 亮氏
講義・座談：「帰敬式（帰依三宝）一ともの同朋にもねんごろのころ」
＜参加者＞スタッフ・センター委員・組長・報恩講帰敬式スタッフ
- 第2回 2022年4月25日(月) 14:00～16:30 講師：旭野康裕氏
講義・座談：「共に仏弟子となる―慶讃法要テーマを通して」
＜参加者＞スタッフ・センター委員・報恩講帰敬式スタッフ
- 第3回 2022年5月19日(木) 14:00～16:30 問題提起：三木朋哉氏
協議会：第1回法座の持ち方について・法名の意味の伝達
＜参加者＞スタッフ

＜実施年度 本講座＞ 従来の別院帰敬式に、第1回・第4回を加えて実施

新規設定	<p>第1回 各組(各ブロック)開催</p> <p>開催期間：2022年10月～2023年2月末(他の事業(親鸞教室)との合同開催も可)</p> <p>内 容 (全ブロック統一)</p> <p>①帰敬式―法名を名のるということ ②真宗の本尊―お内仏のお給仕 ①②を実施</p> <p>会 場：各ブロック(各組)開催 ※各組又は近隣組合同開催 ※内容以外の実施方法については各組に委ねる。</p>
	<p>第2回 高山別院報恩講帰敬式事前学習会(従来より開催)</p> <p>期 日：2022年10月18～20日(日中と夜の2部制)</p> <p>①13:30～15:00 講師：帰雲真智氏 ②19:00～20:30 講師：夏野了氏</p> <p>会 場：高山別院</p> <p>内 容：テーマ「共に仏弟子となる―慶讃法要テーマを通して」・受式事前説明 ※リモート・各組開催について検討</p>
従来の開催	<p>第3回 高山別院報恩講での帰敬式執行</p> <p>期 日：2022年11月3日 10:00～12:00</p> <p>会 場：高山別院</p> <p>内 容：帰敬式執行・同朋唱和 法話：テーマ：「真宗門徒」 講師：三島多聞輪番</p>
	<p>第4回 帰敬式受式者奉仕団(又は団体参拝) ※慶讃法要団体参拝で検討も可</p> <p>期 日：未定</p> <p>会 場：真宗本廟</p> <p>内 容：帰敬式受式を機縁として本廟奉仕(参拝)いただく</p>

＜アフターとして＞

- 法名の意味の伝達・寺院行事への案内（帰敬式受式者へ所属寺院住職）
- 別院・組の行事への案内の実施

各組との連携を持ちながらの実施が願われます。